

博士課程教育リーディングプログラム 令和元(2019)年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成25(2013)年度		
機関名	名古屋大学	全体責任者(学長)	松尾 清一
類型	複合領域型(多文化共生社会)	プログラム責任者	高橋 雅英
整理番号	S02	プログラムコーディネーター	東村 博子
プログラム名称	「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

本プログラムは、多文化共生に資するウェルビーイング(豊かな生活を実現し権利を保障する)をアジアで実現するために、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーを育成することを目的とする。具体的には、アジアのなかで、ウェルビーイングの実現に密接に関わる食(量的確保と安全)、環境(衛生)、健康(医療、福祉)、社会(脱貧困)、教育(次世代育成)における諸問題を、医学・保健学・農学・国際開発学・教育学の各分野で獲得した高度な専門性を活かし、グローバルな視点で意志決定できる女性リーダーの育成を図る。大学組織としては、国際開発、生命農学、医学(医学科・保健学科)、教育発達科学研究科の4研究科、および男女共同参画室、農学国際教育協力研究センターからなる研究教育支援のプラットフォームを設置し、国内外の優れた研究者、国際機関・民間企業等でグローバルに活躍する専門家らが担当する教育プログラムと、ロールモデルとなる女性教員・専門家らからなるリーダー育成プログラムを実施する。

2. プログラムの進捗状況

大学全体として女性リーダー育成に資する本プログラムの意義を共有し、意識改革を推進し、本プログラムが契機となり、UN Womenが主催するHeForShe事業により、女性活躍を推進する世界のトップ10大学の一つとして、全国で唯一名古屋大学が選出されたことも本プログラムの成果である。H30年度には、「博士課程教育推進機構」を全学組織として設置し、大学院共通講義を開講した。ここには本プログラムの講義も導入され、補助金終了後も全学的な女性リーダー育成の意識の普及を図る体制を構築した。プログラムで創設したグローバルリーダー論1~4、多文化共生特論(Cross Cultural Talk)、海外実地研修1~2などについても、科目ごとに複数の担当教員を定め、継続の体制を確立し実施されている。R2年度7期生の募集には応募者がいなかった。新型コロナウイルスの影響により、海外実地研修は中止し、R2年度の対象学生は来年度に参加予定である。グローバルリーダー論はビデオ講義として実施し、多文化共生特論も学生主体で準備は進めており、状況によりon-lineでの参加となることを前提として計画を進めている。

(機関名:名古屋大学 類型(領域):複合領域型(多文化共生社会) プログラム名称:「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラム)